

5. 暴露量調査対象物質の分析法概要

物質名	分析法フローチャート	備考
<p>[10]ピンクロゾリン (N-3,5-ジクロロフェニル-5-メチル-5-ピニル-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン)</p> <p>[11]メトキシシクロ</p>	<p>【水質】</p> <p>「外因性内分泌攪乱化学物質調査暫定マニュアル」、 「昭和57年度化学物質分析法開発調査報告書」及び 「平成元年度化学物質分析法開発調査報告書」準拠</p>	<p>分析原理：GC/MS-SIM</p> <p>検出下限値： 【水質】(ng/L) [10] 5.0 [11] 2.0</p> <p>分析条件： 機器 GC：QP-2010 MS：QP-2010 カラム DB-5MS 30m×0.25mm, 0.25μm</p>
	<p>【底質】</p> <p>「外因性内分泌攪乱化学物質調査暫定マニュアル」、 「昭和57年度化学物質分析法開発調査報告書」及び 「平成元年度化学物質分析法開発調査報告書」準拠</p>	<p>分析原理：GC/MS-SIM</p> <p>検出下限値： 【底質】(ng/g-dry) [10] 0.43 [11] 2.6</p> <p>分析条件： 機器 GC：QP-2010 MS：QP-2010 カラム DB-5MS 30m×0.25mm, 0.25μm</p>

5. 暴露量調査対象物質の分析法概要

物質名	分析法フローチャート	備考
<p>[10]ピンクロゾリン (<i>N</i>-3,5-ジクロロフェニル-5-メチル-5-ピニル-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン)</p> <p>[11]メトキシクロル</p>	<p>【生物】</p> <p>生物試料 湿重量10g</p> <p>ホモジナイズ アセトン10mL、ヘキサン20mL</p> <p>遠心分離 3,000回転で10分間</p> <p>×2回</p> <p>水洗浄 精製水50mL×2回</p> <p>分配 ヘキサン飽和アセトン溶液 50mL</p> <p>振とう抽出 5%食塩水 ヘキサン50mL</p> <p>水洗浄 精製水100mL</p> <p>脱水・濃縮</p> <p>フロリジルカラム クリーンアップ 洗浄: ヘキサン及び エーテル/ヘキサン(5:95) 10mL 溶出: エーテル/ヘキサン(15:85) 100mL</p> <p>濃縮 窒素ガス気流下 1mLまで</p> <p>GC/MS-SIM</p> <p>↑ シリンジパック添加 フェナントレン-d₁₀及び <i>p</i>-ターフェニル-d₁₄ 各100ng</p> <p>「外因性内分泌攪乱化学物質調査暫定マニュアル」、 「昭和57年度化学物質分析法開発調査報告書」及び 「平成元年度化学物質分析法開発調査報告書」準拠</p>	<p>分析原理：GC/MS-SIM</p> <p>検出下限値： 【生物】(ng/g-wet) [10] 3.3 [11] 1.8</p> <p>分析条件： 機器 GC：6890N MS：5973N inert カラム HP-5MS 30m×0.25mm, 0.25µm</p>